

# 平成25年度 県小教研学習指導改善調査結果を受けての取組

見附市立新潟小学校

## 1 研修主題

自分の考えを書き、伝え合うことで考えを深めるための指導法の工夫（2年次）

## 2 研修主題設定の理由

当校では、言語活動を充実させるために、「書く」「伝え合う」活動を授業の基盤に据えて、「書くことによって考え、伝え合うことによって考えを深める授業づくり」に取り組んできた。

昨年度の児童アンケートによると、「自分の考えや思いを互いに伝え合うことができた」と答えた児童が85%であった。また、職員アンケートによると「伝え合うことで考えを深めることができた児童」が83%であった。

一昨年度の反省として、考えが深まるとはどのような状態なのか、その定義が曖昧だったという事が挙げられた。そこで昨年度は、授業の終盤で書くときには、友達の名前や友達の考えを取り入れながら、書くように指導し、そのことをもって考えが深まったかどうかを判断することにした。このことにより、評価が明確になり、職員アンケートにも結果として残すことができた。

しかし、課題として、次の点が挙げられた。

- (1) 学年に応じて、どれぐらいの量を書ければよいのか。
- (2) 学年に応じて、どのような内容（質）の文章を書ければよいのか。

そこで今年度は、上記の課題を明らかにするために、自分の考えを書き、互いにその考えを伝え合うことでさらに考えを深める授業を目ざし、その指導法を工夫することを研修主題として設定した。

## 3 研究内容

### (1) めざす授業像

- ①明確な課題提示を行う。
- ②課題に対する自分の考えを書かせる。
- ③互いの考えを伝え合うようにさせる。
- ④伝え合ったことをもとに、再度自分の考えを書かせる。

### (2) めざす児童像

- ①根拠や理由を明確にしながらか自分の考えや思いを書く。
- ②相手に自分の考えや思いを伝える。
- ③相手の考えや思いを、自分の考えや思いと比較しながら聞く。
- ④伝え合ったことをもとに、さらに根拠や理由を明確にして自分の考えや思いを書く。

(3) 学年部に応じためざす児童像

	自分の考えを書く	伝え合う	考えを深める
低学年	○自分の考えや思いを書く。	○相手の考えや思いを最後まで聞く。 ○相手の言いたいことを聞き取る。 ○自分の考えをはっきり話す。	○友達のことを考えて書いて書く。
中学年	○根拠や理由を入れて、自分の考えを書く。	○自分の考えとの異同を考えながら聞く。 ○自分の立場をはっきりさせて話し合いに参加する。 ○分からないことを質問する。	○友達のことを考えてそれに対する自分の判断を入れて書く。
高学年	○根拠や理由をより多く挙げながら、自分の考えを書く。	○内容を区別（異同、賛成・反対・質問、事実・意見）しながら聞く。 ○必要に応じてメモをとりながら聞く。 ○具体例を挙げたり、仮定したり、視点を転換したりして意見を言う。 ○質問したり、根拠を明確にして反対したりする。 ○話し合いの整理をする。	○友達のことを考えてそれに対する自分の判断を、根拠・理由を入れて書く。

(4) 具体的方策

- ① 明確に課題を提示する。(わかりやすい発問、具体的な指示を行う)
  - ・ 話し合う必然性がある課題を設定する。
  - ・ 多様な考えが出るような課題を設定する。
- ② 自分の考えを書くことの習慣化を図る。
  - ・ 考えが書けたことをほめ、全ての考えを認める。
  - ・ 多様な考えが大切であることを子どもたちに意識付ける。
- ③ 伝え合う活動を取り入れる。
  - ・ 多様な形態を取り入れる。(隣同士、小グループ、全体)
  - ・ 話し合いの話型について、学年部で見直しを図り、子どもたちへの意識化を図る。
  - ・ 意欲的な発言、新しい視点の発言、反対意見や質問が集まる意見を採り上げ、ほめる。
- ④ 授業の終盤に再度、自分の考えを書かせる。
  - ・ 友達の名前や考えを入れて書くようにさせる。
  - ・ 書くことで、考えの深まり・伝え合いの成果等を見取る。

4 授業実践

国語—情景を想像して読もう(5年生)—

(1) 目指す児童の姿



- 根拠を明確にして、理由を加えながら自分の考えを書く。
- 具体例を挙げたり、仮定したりして 意見を言う。
- 内容を区別（異同・賛成・反対・質問）しながら伝え合う。
- 友人の考えを生かしながら、学習のまとめを書く。

## (2) 具体的な手立て

### ①課題提示

中心課題は、必ず板書し、ノートに写させる。ノートに写したら、分かりやすいように赤で囲ませる。課題は、二者択一的な課題か多様な考えが生じる課題を用意する。また、その課題を考えることで詩の情景を想像できるような課題を用意する。

### ②自分の考えを書く

課題に対する自分の考えとその理由をノートに書かせる。考えが書けたら教師が確認し、その考え方を認め、どこがいいのかを端的にほめる。

また理由はできるだけ長く、いろいろな観点から書かせる。そのために、長く書けている児童や、多様な観点から書けている児童をほめる。さらに、他の意見への反論も書かせるようにし、書けている子をほめるようにする。

### ③伝え合う

最初にどの考えを支持するのか人数を聞き、板書する。少数派の理由から発表させ、理由の発表が終わったら討論に入る。

討論が活発になるように、できるだけ児童同士だけで討論をさせていく。論点がずれたり、発言の順序が違ったりした時には、教師が論点を整理したり、誰が言う番なのかを指導したりする。発言に偏りが出ている場合は、途中で討論を止めて、発言していない児童の話す時間を確保する。また、意見がなかなか出ずに膠着状態になった場合は、隣同士や小グループで相談する時間をとる。

討論を終えたら、どの発言がよかったのか教師が意味付け、価値付けをしてほめる。

### ④自分の考えを書く

授業の終盤で、再度、同じ課題に対しての自分の考えを書かせる。その時には、他の児童の名前や考えを入れて書かせるようにする。自分の考えを整理させるために、書く時間を十分確保する。

(5年生 児童のノート)

雪 三好達治

太郎を眠らせ、太郎の屋根に雪降りつむ。

次郎を眠らせ、次郎の屋根に雪降りつむ。

今日は「雪」という詩について学習した。まず、太郎と次郎の関係について話し合った。私は、兄弟ではなく「それ以外」だと考えた。理由は兄弟で一緒に住んでいたら、わざわざ二つの文にしなくてもいいと思ったからだ。

次に家は何軒あるかについて話し合った。私は二軒以上あると考えた。理由は、太郎、次郎と続いたら、もっとその先にもあると思ったからだ。

宙さんと瑠亜さんが「太郎と次郎は例だと思います」と言ったが、私もその意見に賛成だ。

## 社会－「暮らしの中の政治」(6年生)－



### (1) 目指す児童の姿

- 資料や知識，体験の中から根拠を見付け，根拠を示して理由を書く。
- 内容を区別（賛成・反対・質問）しながら伝え合う。
- 友達の考えを生かしながら，自分の考えを書く。

### (2) 具体的な手立て

#### ② 課題提示

課題は，二者択一，または，多様な考えが出るようなものにする。話し合わせたいことに関連する社会的事象の資料を用意し，資料提示の仕方も工夫して，資料を読み取るうちに自然と児童から課題が出るようにする。

#### ② 自分の考えを書く

自分の考えの根拠となる体験や既習事項，資料をもとに具体的に書かせる。落ち着いてじっくりと考えることができるように，「〇分まで書く時間です。時間いっぱい書きなさい。」と指示を出す。児童が書いている間は，机間巡視し，なかなか書けない児童には，「どうしてそう考えるの？」「どの資料が分かりやすい？」などと，考えを導くような問いかけをする。また，書けている児童には，「〇〇さんは，〇行も書いている。」「いくつかの資料を使っているね。」「今まで学習したことをもとにしているね。」などとほめる。ほめることで，他の児童にヒントを与えたり，やる気を高めたりすることができる。と考える。

#### ③ 伝え合う

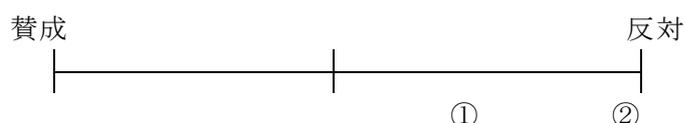
指名なしで発言させるが，前の発言内容と似ている，関連している考えを優先させる。関連している考えが途切れたら「～さんたちの考えと違う考えです。」と言ってから発表させる。それぞれの考えを伝え合った後に，質問したり，反論を言ったりすることがしやすくなるように，発表の中のキーワードをメモさせる。それとともに，できるだけ児童の思考の流れに合うように板書する。

#### ④最後に自分の考えを書く

話し合いを振り返り，「だれの，どのような考えが，どのように参考になったか。役に立ったか。自分の考えを変えたか。」と書かせる。

### (6年生 児童のノート)

日本も投票を義務にすることに賛成か反対か。



(※①は最初の考え、②は終盤での考え)

(理由) 義務にすると，投票する人を決められなくて，「この人でいいや」と適当に決めてしまう人が出てくると思う。決められなくて，投票しないと罰を与えるというのは，少しやりすぎだと思う。でも，このようなことをしないと，投票する人がどんどん少なくなっていく，国

民の考えが取り入れられなくなるから、少し迷う。

(まとめ) 少し迷っていたけど、今は反対の方になった。義務にして無理やり投票させなくても、こうきさんが言ったように新聞やインターネットなどで関心をもってもらったり、仕事の中でも時間をつくって投票しやすくすればいいことが分かった。

## 5 終わりに

2学期末に行った児童アンケートによると、「自分の考えや思いを互いに伝え合うことができた」と答えた児童が96%であった。また、職員アンケートによると「伝え合うことで考えを深めることができた児童」が85%であるという数値になった。

昨年度から、授業の終盤で書くときには、友達の名前や友達の考えを取り入れながら、書くように指導し、そのことをもって考えが深まったかどうかを判断することにしてきた。

その昨年度の数値と比較すると、児童アンケートでは4ポイント、職員アンケートでも3ポイント上昇している。児童のノートを見ても分かるように、友達の名前や友達の考えを引用しながら、自分の考えを書くことができるようになってきている。

このことから、自分の考えを書き、互いにその考えを伝え合うことでさらに考えを深める授業が定着してきたといえる。

また、今年度の「研究のまとめ」では、児童のノートや作文集を取り入れて、各学年においてどれぐらいの量をどの程度書けるようになったのかを公開していく。今後、児童の実際の文章をもとに、さらに各学年によって、どれだけの量をどの程度まで書けることが望ましいのか、その具体的な姿をさらに検討していく必要がある。